

コード	205020201
記入日	H21.6.8

課コード	118
課名	土木課
課長名	石司貴英
担当者	濱崎義高

## 事務事業途中評価表

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	河川維持修繕事業
----------	----------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	8
施策コード	205	施策名称	安全を実現できる体制づくり	項コード	3
基本事業コード	20502	基本事業名称	治山・治水対策の推進	目コード	1
事務事業コード	2050202	事務事業名称	河川管理事業費	細目コード	77
関連計画	新上五島町振興計画		法令・条例規則等	河川法	

**計画 (PLAN)** ※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象: 誰、何を対象にしているのか		対象指標: 対象の大きさを表す指標				
(対象1) 新上五島町が管理する河川 (対象2)		(対象指標1) 普通河川の数 371本 (対象指標2)				
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	河川を維持管理することで、住民生活へ影響がでないようにする。河川修繕数 15本	***** 河川修繕数	***** 15本	***** 100%	河川修繕数15本÷ 計画河川修繕数15 本	***** 平成20年度
		①	(達成率分析) 計画どおり達成できた。			
		②	(達成率分析)			
目的: 何をしたいのか		成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
河川流域住民が浸水被害等から安全、安心して生活できる環境を確保するために適正な維持管理を行う。		***** 安全管理日数	***** 365日	***** 100%	安全管理日数365日 ÷管理すべき日数36 5日	***** 平成20年度
		①	(達成率分析) 維持修繕を行ったことで、年間を通して安全を確保することができた。			
		②	(達成率分析)			

**実施 (DO)** ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 本	44	33	11	15	15					
	②										
成果指標	① 日数	1461	1461	1096	365	365					
	②										
総事業費C (A+B)	千円	24,762	24,038	13,976	10,786	10,062					
直接事業費 A	千円	10,762	10,038	6,976	3,786	3,062					
人件費 B	千円	14,000	14,000	7,000	7,000	7,000					
内訳	従事職員数	人	2.0	2.0	1.0	1.0					
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	24,762	24,038	13,976	10,786	10,062					

コード 205020201

**評価(CHECK)** ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	河川管理者である町が行うべきものである。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	河川の安全性・利便性については、普遍的なものであり町が行う必要がある。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	住民生活の利便性を向上させるための事業であり適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	事業の途中であるが、計画どおり事業は推進されている。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	ほぼ計画どおり進んでいるため特別向上させる必要はない。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	河川の安全性及び利便性の確保ができない。
	類似事業との整理統合はできませんか。	● できる ● できない	理由	単一の事業であり、他の事業との整理統合はできない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	最小の経費で最大の効果をあげる設計となっており削減できない。
	人件費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	現在の人員を削減することは事業推進上できない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由	河川管理者が行うべきもので受益者負担は発生しない。

**改善(ACTION)**

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	住民の利便性及び河川の安全性を向上させるための事業であり、有効である
		効率性	最小の経費で最大の効果をあげる設計となっており、今のところ経費を削減することはできない。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	災害時の浸水被害等の防止・生活環境保持のため適正な維持管理に努めること。また、補修等は計画に行うこと。
		効率性	計画的に補修等行うことで、経費の計画的な執行に努めること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。